

「人と地球と暮らしの笑顔」をテーマに、 社会との共生関係を構築する 社会貢献に取り組む



2006年1月、(株)ノーリツの「特例子会社」として厚生労働省の認可を受けた(株)エスコアハーツは、障がい者と高齢者を継続的に雇用し、両者のコラボレーションを通して障がい者の自立を支援することを目的として設立されました。2008年から(株)ノーリツの返品物を中心に給湯器リサイクルに取り組み、その蓄積されたノウハウを生かして「人に笑顔プロジェクト」を推進しています。創業60周年を迎える(株)ノーリツの策定した新たなグループビジョンやブランドメッセージは、事業活動のすべてにしっかりと反映されています。今回は、(株)エスコアハーツの板敷さんに、社会と地球環境にやさしい同社の取り組みについてお話を伺いました。

障がい者の自立と、 就労機会の拡大を目指す

松田:(株)エスコアハーツ様では、社会貢献事業として地域に密着した素晴らしい取り組みを進めていらっしゃると思いますが、そのきっかけを教えてください。

板敷:当社は(株)ノーリツの社内提案制度からスタートし、2006年1月に(株)ノーリツの「特例子会社」として厚生労働省の認可を受けました。その背景には、日本における障がい者数が約740万人を超え、年々増加傾向である事実がありました。障がい者の自立を図ることが、これまで以上に重要なものとなる中、常用雇用労働者数が56名以上の企業に対して全雇用者数の1.8%



株式会社エスコアハーツ 取締役 板敷 正人

の障がい者雇用が義務づけられるなど法定雇用率達成指導が強化されています。そこで、(株)ノーリツの雇用率対策だけでなく、障がい者の自立と就労機会の拡大、中高齢者の活躍の場の確保を目的として(株)エスコアハーツを設立しました。

松田:設立から6年を経て、(株)エスコアハーツ様では多くの知的障がい者の方が主に活躍されていると伺いました。

板敷:設立当初は社員14名中障がい者の方は8名。現在は、30名の知的障がい者と2名の聴覚障がい者を含む32名が、高齢者とコラボレーションを図りながら活躍してくれています。また、6年間を通じて離職率がゼロであることも注目されています。

松田:確かに、重要なのは雇用定着ですね。それでは、障がいを持つ方の自立ポイントはどのようなことだと考えていらっしゃいますか。

板敷:1つは、現場指導者に中高齢の方を採用し、中高齢者の持つ経験を活用することです。そして、障がい者だから、という気持ちを互いになくすこと。人として認められれば、それが励みになり、やりがいと楽しみを感じられるからこそ離職ゼロが実現しているのだと思います。また、労働集約型ビジネスと考え、特例子会社であることに関わらず、障がい者従業員を集約することで効率を上げるようにしています。さらに、「従業員が自立するためには企業も自立する」という考えの下、売上の半分を(株)ノーリツ以外で上げていますし、全従業員が収益にこだわることも大切なことだと考えています。

給湯器リサイクル業務を通じて、 社会と共生する

松田:ノーリツグループ様として取り組まれている「人に笑顔プロジェクト」について教えてください。

板敷:当グループでは、「事業を通じた社会貢献とともに、よき企業市民として、社会の発展や健全化への取り組みを積極的に行う」という考えをベースに、「人と地球と暮らしの笑顔」をテーマに、3つの笑顔プロジェクトをスタートしました。その1つが「人に笑顔プロジェクト」です。

松田:事業活動を通じて、社会と共有できる価値を生み出し、事業の成功と社会の成功が相互に補強しあえる共生関係を作るという姿勢は、まさに今の時代に求められているものですね。

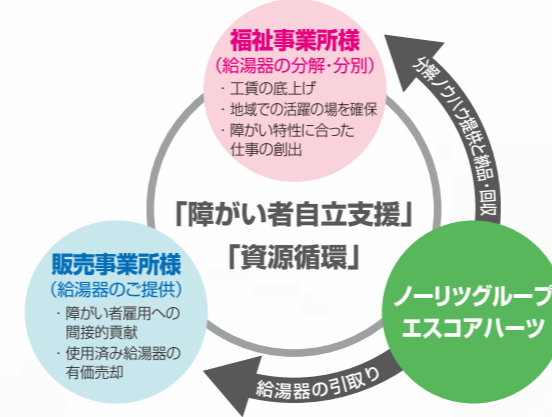
板敷:当社では、これまでに、エコジョーズ用中和器の生産、小ロットでの注文に対応できる名刺や封筒など各種印刷物の制作、(株)ノーリツのカタログや販促物を全国に発送するカタログ支援などの業務を行ってきました。今後、さらに障がい者がイキイキと働ける機会を作ること、使用済みの給湯器を資源として有効に活用することを目的として、2009年10月に、使用済みの給湯器をリサイクルする「人に笑顔プロジェクト」をスタートさせました。このプロジェクトは「福祉から雇用へ」をキーワードに、地域の福祉施設様とタイアップして使用済みの給湯器を分解する仕事を願ひ、障がい者の工賃アップを目指すというものです。当社の取り組みを福祉事業様に拡大することで、販売事業者様を含めた3者が、それぞれに確かなメリットをもって連携していきます。さらに、今年6月から給湯器の運搬用リターナブル梱包の洗浄も開始。給湯器に関わる全てのものが、社会と環境にやさしく生まれ変わっています。

松田:「地球環境」と「障がい者自立支援」が両立する素晴らしい取り組みですね。具体的に、給湯器のリサイクルはどのように行われているのですか。

板敷:これまで、産業廃棄物業者様やリサイクルショップ様が必要となった給湯器を引き取り、スクラップとして破碎するか、そのまま海外へ輸出していました。破碎するのならば、メーカーとして分解・分別しやすい給湯器を生産しても資源再生には貢献できません。そこで、当社が販売事業者様から不要な給湯器を古物として有価売却いただき、福祉事業者様へ分解業務のノウハウを提供すると同時に業務委託をします。そうすることで、障がい者の地域での活躍の場が確保でき、工賃の底上げをすることができます。分解・分別されたものは資源として売却をします。当社で製造している給湯器の再生率は98.7%を誇っており、排気

パッキンと断熱材だけを協力会社が分別し産業廃棄物として処理します。松田:私ども流通事業者にとっては、不要な給湯器を有価売却するだけで障がい者雇用への間接貢献、国内資源循環への貢献ができるわけですね。当社でも兵庫県限定ですが、使用済みの給湯器の回収を始め、そこで得た売却益を有効に活用し、社会貢献につなげたいと考えています。御社のこのような取り組みをどのようにして浸透させていこうとお考えですか。

板敷:近畿地区から始めて、1社ずつ販売事業者様にご協力をお願いする草の根作戦が一番だと思っています。



信頼の絆をより深く育て、 社会とともに発展する

松田:御社の売上の推移を拝見すると、加速度的に売上が増えているように感じます。その理由はなんですか。

板敷:リサイクルの拡大に成功したことが大きな要因です。印刷事業においても作業自体が売上でプラスになり、当グループにとっても減価貢献となっています。(株)エスコアハーツ設立の基

となった提案は、私自身が他社の特例子会社を見学に行き、障がい者の方が真剣に電子シェーバーを作っている姿に感動したことが始まりです。当社の工場を見学いただき作業風景をご覧いただければ、コストと品質に納得いただけると信じています。

松田:現在は給湯器のリサイクルをメインにされていますが、今後、どのような商材を取扱われる予定ですか。

板敷:先日、協力会社がフロン回収業の資格を取得したので、エアコンのリサイクルにも取り組もうと考えています。そのほか、鉄くずにも広げていきたいですね。

松田:私どもは建築業にも携わっているので、建築過程に出るゴミのリサイクル等も考えていただきたいと思います。今後の展望はいかがですか。

板敷:現在、小野福祉工場様、はぐるま福祉会様、たつのGHO様、いずみ野福祉会様の4つの施設様と業務提携ができました。これからもじっくりと腰を据えて取り組んでいきたいと思っています。

松田:社会と会社がバランスよく成長することの大切さを改めて感じました。地域に根ざした企業として、私たちにできることをさらに追求し、御社が中心となって推進されている社会貢献活動に参加、協力できることに感謝しています。本日は、お忙しい中、本当にありがとうございました。

エスコアハーツ 事業案内

エスコアハーツの事業を簡単にご紹介いたします。

プロダクトサービス部



中和器組立



給湯器の分解



カタログ支援センター

ノーリツ製エコジョーズ部品の一つである中和器を加工したり、不要になった給湯器の分解・分別し新たな資源を生み出す作業を行っております。また、カタログ支援としてノーリツ製品などのカタログをピッキング・梱包し全国へ発送を行っています。

ビジネスサービス部



プリントセンター(商業印刷)



プリントセンター(仕分発送)

印刷全般に関するすべてのサービスを行っており、また全国のノーリツ営業拠点様から、ノーリツ製品の承認図面発送依頼を承っております。

資源再生部



回収された資源

ノーリツグループや関連会社、協力会社で排出される鉄や非鉄金属のスクラップの回収および資源再生メーカーへの売却を行っています。

工場内の一角には、NOP法人プラチナ&チャレンジド人材センターがあり、障がいを持つ方に向けて求職活動から就職後の定着を支援する「就労移行支援」を行っており、企業に対する採用依頼にも積極的に取り組んでいます。

不要になりました給湯器等を 無償処理いたします。

ガス給湯器・石油給湯器・エコキュート・電気温水器・コンロ・ガスメーター
＜全メーカー・全機種が対応となります＞

株式会社MANIXではリサイクルへの取り組み(兵庫県の店舗のみの対応です)として環境・エコについて真剣に考え推進していく一歩である、給湯器のリサイクルに力を入れていきます。現場でご不要となりました給湯器をMANIXの各店舗までお持ち込みいただければ、責任を持って無償処理致します。
H23.10月現在